

「信濃の橋を語る」職員研修会が開催されました

佐久建設事務所では、佐久穂町の県道大張北岩水線にある「栄橋」の損傷が著しいため、補修工事を計画しています。栄橋は昭和 13 年(1938 年)に建設され、唯一ゲルバーヒンジを用いた 3 径間、橋長 86m の橋梁となっています。平成 14 年(2002 年)に社団法人土木学会より、歴史的建造物の保存を目的とした土木遺産に認定された貴重な橋梁で、通常は鋼材で施工するところを、鉄筋コンクリートで施工した全国的にも珍しいローゼ桁で、長野県内に 5 橋残されているうちの 1 橋です。



講演会に先立ち、栄橋の視察を行いました

佐久建設事務所管内にこうした貴重な構造物が現存していることを機縁に、今年刊行された「信濃の橋百選」の代表である小西純一信州大学名誉教授と上田建設事務所の山浦直人所長による「信濃の橋を語る」講演会(トークセッション)が 10 月 18 日に、佐久建設事務所の職員約 40 名が参加して開催されました。



講演会(トークセッション)の様子です

長野県内にはまだ貴重な橋梁が多数あり、橋梁の歴史・伝承、デザイン、構造等に加え、機能性や安全性、利便性についての知見を深めるとともに、地域の資産としての再認識や近代土木遺産としての重要性についての知識を、この研修会を契機に今後の業務に役立てていきたいと考えています。